

PRESS RELEASE (報道関係者各位)

2009年10月1日

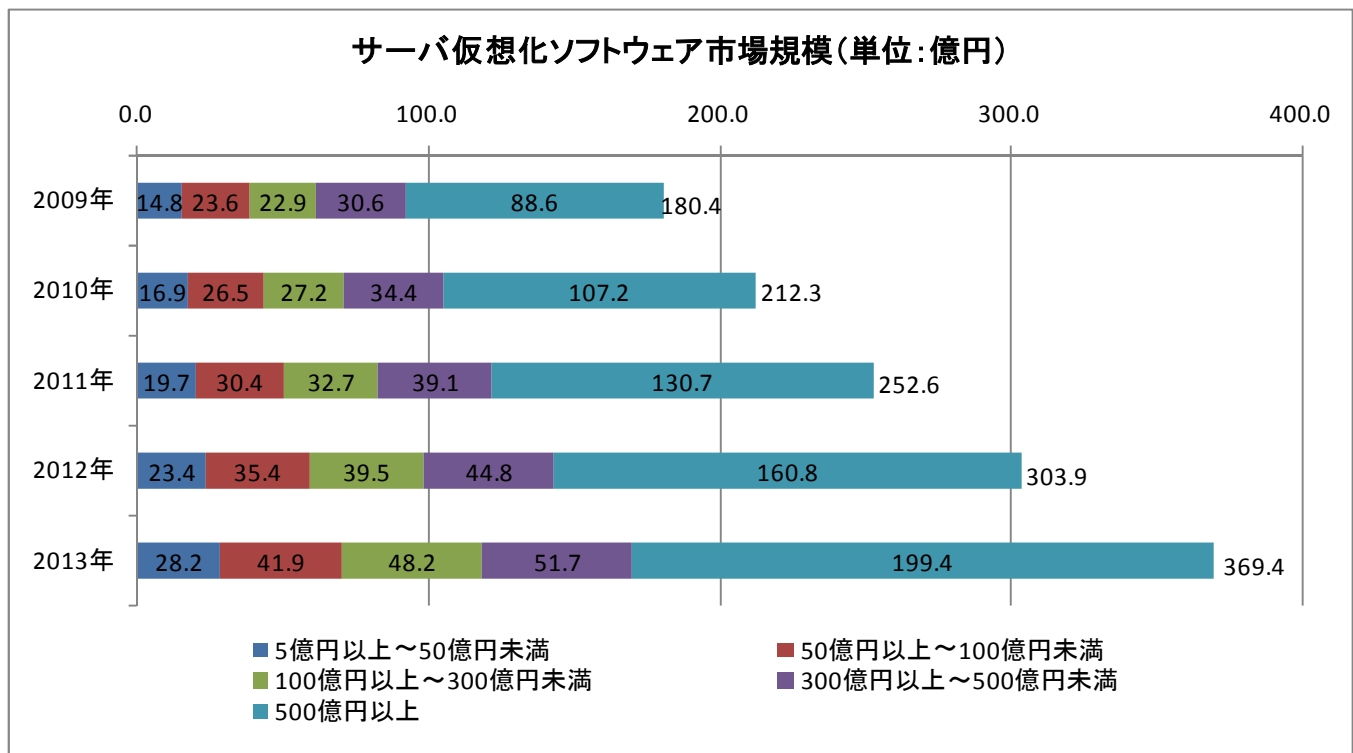
国内仮想化関連市場規模の現状と中期予測報告

ノークリサーチ(本社〒120-0034 東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705:代表伊嶋謙二)は国内仮想化関連市場規模に関する調査結果を発表した。本調査は「サーバ仮想化ソフトウェア」と「デスクトップ仮想化ソフトウェア」の二つの分野について、ユーザ調査結果に基づいて市場規模を試算したものである。

<2013年にサーバ仮想化は369.4億円、デスクトップ仮想化は53.3億円に達する>

- サーバ仮想化ソフトウェアは大企業が牽引役だが、中堅・中小企業にも徐々に普及
- 中堅・中小企業におけるサーバ仮想化普及のカギは「スケーラビリティ」と「レガシー資産継承」
- デスクトップ仮想化ソフトウェアは大企業による自社内運用と中小企業によるDaaS活用が牽引

サーバ仮想化ソフトウェア市場は大企業が牽引するも、中堅・中小企業での普及も進む



上記グラフは民間企業の年商帯別に国内サーバ仮想化ソフトウェア市場規模の試算結果である。ここでのサーバ仮想化ソフトウェアとは「サーバ仮想化ハイパバイザ及び関連する管理ツール」を指し、試算対象は商用ソフトウェアライセンスの民間企業による年間投資金額である。

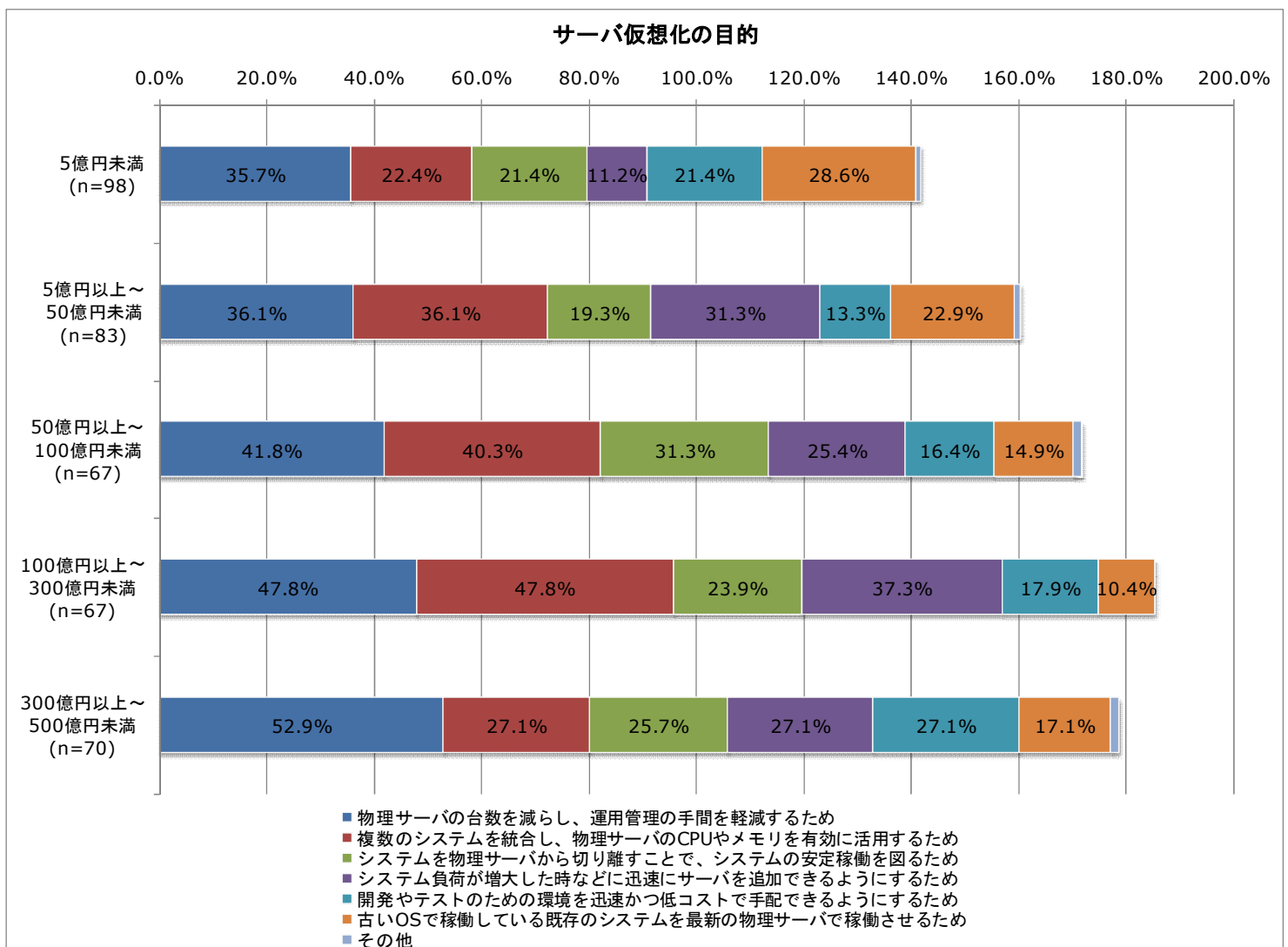
年商500億円以上の大企業におけるサーバ統合(特に複数拠点やグループ企業も含めた統合)が全体市場を強く牽引していくが、中堅・中小企業においてもサーバ仮想化を活用する動きが見られ始めており、年商5億円以上～500億円未満における市場規模は2013年には2009年の二倍に達する見込みである。

中堅・中小企業においてはサーバ物理集約以外の用途でのサーバ仮想化活用がカギ

以下のグラフは年商500億円未満の中堅・中小企業に対し、サーバ仮想化の目的を尋ねた結果である。全ての年商帯において、「運用管理負荷の軽減」や「リソースの有効活用」を目的としたサーバ物理集約が多くを占めている。しかし、中堅・中小企業は大企業と比べてサーバ台数が少ない。中堅・中小企業でサーバ仮想化が広く普及するためには、物理サーバ台数削減以外の用途を活性化させることが重要なポイントとなってくる。

年商5億円～500億円では「負荷増大時の対応」が比較的多く、サーバ仮想化で得られる「迅速な配備」が有効な訴求ポイントの一つであることがわかる。また、年商が低くなるにしたがって「古いOSで稼働をしている既存システムの移設」の割合が高くなっている。情報システム部門/担当者が少ない中堅・中小企業ではサポート期限の切れたOS上で業務システムを稼働させているケースもあり、そうしたレガシー資産を安全に存続させるための手段としてサーバ仮想化が有効であることがわかる。

今後はサーバ統合に加えて、「スケーラビリティ」「レガシー資産継承」といった複数の観点からのサーバ仮想化活用を訴求していくことが、中堅・中小企業におけるサーバ仮想化市場の活性化のカギを握っているといえるだろう。



デスクトップ仮想化ソフトウェア市場は大企業と中小企業がそれぞれ異なるニーズで牽引

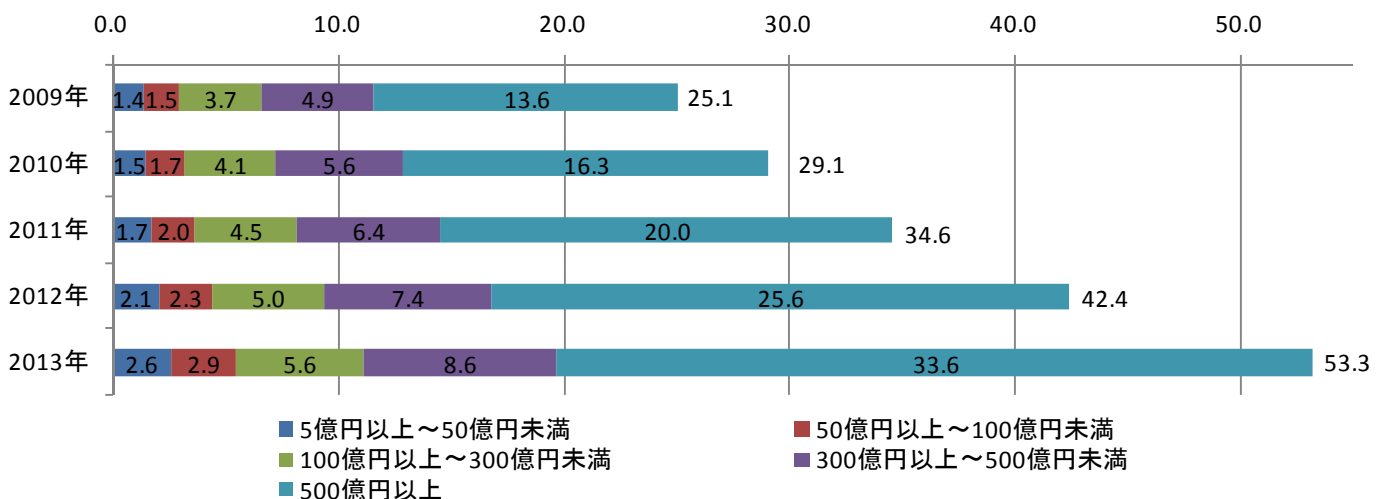
以下のグラフは民間企業の年商帯別に国内デスクトップ仮想化ソフトウェア市場規模の試算結果である。ここでのデスクトップ仮想化ソフトウェアとは「クライアントPCにおけるハードウェアとソフトウェアを分離し、複数ユーザのデスクトップ環境(OSおよびアプリケーション)を統合的に管理するソフトウェア」を指す。アプリケーション層のみを対象とするソリューション(画面転送型のシンクライアントやアプリケーションをパッケージ化して配信するもの)および、ポイント・ツー・ポイントでデスクトップ環境を個別に扱うものについては除外している。試算対象は商用ソフトウェアライセンスの民間企業による年間投資金額である。

サーバ仮想化と同様に多くの割合を占めるのは年商500億円以上の大企業である。クライアントPC台数の多い大企業においてはクライアントPC環境のセキュリティ維持や運用負荷軽減が課題となっている。それを実現するためには「端末にデータを残さない」という旧来のシンクライアントソリューションでは不十分であり、複数ユーザのデスクトップ環境を統一的に管理する仕組みが必要となってくる。複数拠点のクライアントPCをリモートで管理するといったニーズに応える形でデスクトップ仮想化ソフトウェアの活用が今後進んでいくと予想される。

一方、年商50億円未満の中小企業においてはデスクトップ環境をサービスとして利用する「DaaS(Desktop as a Service)」のニーズが期待できる。この場合、ユーザ企業はデスクトップ仮想化ソフトウェア自体の存在は意識せず、サービス提供者側がデスクトップ環境をインターネット越しに提供する形となる。

このようにデスクトップ仮想化ソフトウェア市場は大企業での自社内運用と中小企業におけるDaaSを通じた利用という二つの要素が市場を牽引していくものと予想される。

デスクトップ仮想化ソフトウェア市場規模(単位:億円)



当調査データに関するお問い合わせ

NORKRESEARCH

株式会社 ノークリサーチ 担当: 岩上由高
東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705
TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692
inform@norkresearch.co.jp
www.norkresearch.co.jp